

# 「街コン」で白石を元気に!



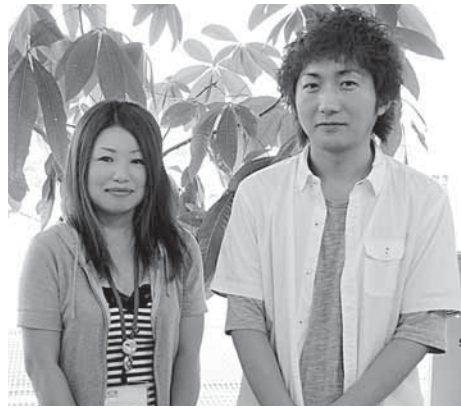
「しろコン」の会場となった(写真左から)「和み処・もの木(清水小路)」、「kitchen ORTO(キッチンオルト)」(中町)、「炭火焼き・呵呵大笑」(沢目)、「DREAM'S HEART(ドリームズハート)」(沢目)、「居酒屋・ふる川」(清水小路)。参加者は各店自慢の料理と店内の雰囲気を楽しみながら、会話に花を咲かせた



# 「街コン」で白石を元気に!

白石駅前の飲食店が合コン会場に!?  
白石市で初の大型合コンイベント「しろコン」を開催  
「出会いの場創出」と「地域活性化」の融合イベントへ

## Interview



(株)旭プロダクション 宮城白石スタジオ  
よしはら あおい 芳原 葵さん  
おがわ ともひろ 小川 朋宏さん

気軽に参加できるようなイベントにしていきたい  
そして、「白石らしさ」を出せるように—

「白石に出会いの場を作りたい」とみんなで話し合い、「しろコン」を企画しました。飲食店の皆さんも快く引き受けていただき感謝しています。参加者の皆さんも最初は遠慮する部分もありましたが、思ったより気軽に参加できるイベントと感じてくれたようです。

「合コン」というとやはり構えてしまう方もいますので、今後は、もっと気軽に参加できて「出会いを楽しむ」ようなイベントにいくことと、市外の人を呼び込む方法を考える必要があります。女性限定ですが、記念品をプレゼントしたことが好評だったことや、「スタッフの皆さんがサポートしてくれた」という声を聞き、うれしく思いました。白石では千人規模の街コンは無理でも、楽しいイベントを作ることができると思います。「白石らしさ」を出せるように、次回に向けて準備をしていますので、ぜひ皆さん気軽に参加してください。

## 第2回 2012年11月下旬 「しろコン」開催予定

旭プロダクションでは、早くも第2回の「しろコン」を計画中! アンケート結果を精査し、よりパワーアップしたイベントとなるよう準備中です。詳しくは、旭プロダクション・地域振興PRサイト「Sコミ」または「しろコン」ホームページをご覧ください(第2回の詳細は10月中旬に掲載予定)。同スタジオが発行する「ふるさとイキイキだより」も必見です。

- 「Sコミ」ホームページURL  
<http://www.pichi-shiroishi.jp/>
- 「しろコン」ホームページURL  
<http://www.pichi-shiroishi.jp/shirocon/>

**白石のイベントとして定着するために**  
今回の「しろコン」を企画・運営した旭プロダクションのスタッフにとっても、街コンのプロデュースは初めて。仙台の街コンに運営ボランティアとして参加するなど、事前の情報収集やノウハウづくりに余念がなかった。参加者へのアンケートでは、「おいしかった」「楽しめた」という意見が大半を占めた。次回に向けての課題もあるようだ。

今回は、飲食店にとって比較的集客が少ないとされる日曜日の夜に設定したが、参加者にとりては次の日以降を気にしてしまい、参加自体を躊躇した方もいたようだ。また、今回も市外から多くの方が参加したが、市外からの参加者をもっと増やすための工夫も必要だ。そして何よりも一番の課題は、ほかの街コンとの差別を図るための「白石らしさ」をいかに出していくかと、回を重ねることによる「飽き」を回避させる工夫かもしれない。

**「出会い」を楽しむ**  
9月2日、白石市で初の街コンとなる「しろコン」(旭プロダクション主催)が白石駅西側の5店舗を会場に開催された。県内外から20〜30代を中心に約80人が参加し、飲食店5店のうち3店を巡り、そこで出会った男女が各店自慢の料理を味わいながら会話を楽しんだ。  
受付開始の午後4時半になると、参加者たちは受付場所のすまいるひろばに集まり、参加証代わりのリストバンドを手指定された1店目に向かった。あいにくの雨に見舞われたが、「カンパ〜イ!」という元気な声や、日曜日の夜の駅前に響き渡った。最初は互いにぎこちない会話も、グラスを重ねることに盛り上がりを見せていった。2店目以降は自由に店を選び、白石の夜を楽しんだ。

**宇都宮市で始まった街コン**  
「街コン」とは、複数の飲食店が参加し街全体で行われる大型合コンイベント。「街を盛り上げる合コン」として、昨年から全国各地で急増しているイベントだ。男女の出会いの場創出と飲食店の集客に活用できるイベントとして注目を浴び、仙台では次の日以降を気にしてしまい、参加自体を躊躇した方もいたようだ。また、今回も市外から多くの方が参加したが、市外からの参加者をもっと増やすための工夫も必要だ。そして何よりも一番の課題は、ほかの街コンとの差別を図るための「白石らしさ」をいかに出していくかと、回を重ねることによる「飽き」を回避させる工夫かもしれない。



▲すまいるひろばで受け付けをする参加者